学校だより 11月号

令和８年１０月３０日　第７号

大田区立多摩川小学校 校長 並木 昭
https://www.ota-school.ed.jp/tamagawa-es/

学校だよりはデータ配信（tetoru）になります。
本校HPにも掲載しています。ご確認ください。

伝統と革新、不易と流行

校長　並木　昭

10 月８日（木）から 10 日（土）に行われました学校公開では、大変多くの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただきました。日頃のこどもたちの様子、そして本校の教育活動に深い関心を寄せていただき、心より感謝申し上げます。

さて、10 月 10 日と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。多くの人が「目の愛護デー」を想像されるかと思いますが、実は「銭湯の日」でもあります。「1010」を「千十（せんとお）」と読む語呂合わせから制定されたそうです。

大田区といえば、何といっても「黒湯」の銭湯が多くあることで有名です。太古の植物が溶け込んだ琥珀色の湯船に浸かると、この街が積み重ねてきた豊かな歴史と温もりが、じんわりと身体に染み渡るような気がします。古きを掘り起こすことで、私たちは今、安らぎを得ています。

伝統あるものといえば、老舗の「秘伝のタレ」を思い浮かべる方もいらっしゃるでしょう。「創業以来、変わらぬ味」とよく言われますが、あのタレは、古いものをただ寝かせているわけではありません。毎日新しいタレを継ぎ足し、火を入れ、常に「刷新」し続けているからこそ、その味が生きているのだそうです。伝統とは、実は新しくあり続けることと同義なのです。

翻って、「学校教育」はどうでしょうか。

現在、国では次期学習指導要領に向けた議論が大詰めを迎えています。同月５日には、中央教育審議会から「審議まとめ」が公表され、パブリックコメントが実施されています。生成ＡＩなどの高度な情報技術が急速に普及するこれからの社会にあって、学校はこどもたちに何を伝えるべきか。その議論の根底に流れているのは、まさに「不易と流行」の精神です。

変わらない良さ、守るべき「ベースのタレ」とは何か。審議まとめでは、ＡＩ時代だからこそ、人との触れ合いや五感を通じた身体的（フィジカル）な体験の価値を今一度認識し、人間ならではの強みを育むことが強調されています。また、単に情報として知っているだけでなく、知識を構造化し、概念としての意味を深く理解した上で現実の課題に粘り強く取り組む力は、学校教育が脈々と受け継いできた「不易」の営みです。

では、新しく継ぎ足すべき「流行」とは何か。それは大きく二点あると考えます。一つは「多様性の包摂」です。異なる個性や特性を持つ多様なこどもたちが、共に学び、協働するプロセスそのものが、深い学びを駆動させる力になるという視点です。そしてもう一つは「余白の創出」です。これまでのやり方を見つめ直し、引き算をすることで、こどもたちが自ら問いを立てる時間や、教師がこども一人一人と向き合う時間的余裕を生み出すこと。この「余白」があってこそ、多様なこどもたちの実態に応じた創意工夫が生まれます。

「秘伝のタレ」のように、確かなベースを守りつつ、時代に合わせたエッセンスを絶えず継ぎ足していく。そうして、こどもたちの心の中に生き生きとした学びを育んでいくこと。それが今の学校に求められている姿だと感じています。

目は大事です。そして、何を残し、何を新しくしていくか。こどもたちの未来に向けて、大人がどう教育をアップデート（更新）していくか、その「目のつけどころ」もまた、等しく大事なのだと考えます。

１１月の生活目標「物を大切にしよう」　　生活指導部

学校では落とし物があると、まず学年やクラス、氏名等を確認します。読みやすく記名されていれば、落とし主に届けることができます。また自分の物だけでなく、使ったものは元の場所に戻すなど、友達の物や学校の物も大切にできるよう声をかけています。物を大切にすることは、作ってくれた人や、次に使う人への思いやりにもつながります。ご家庭でも、整理整頓の様子や記名のご確認をよろしくお願いいたします。

※11月から児童の帰宅時刻が16:30となります。ご家庭での声がけをお願いします。

「伊豆高原移動教室に向けて」　　**５年学年主任**

11月9日から11日まで、小学校生活初めての移動教室に行きます。移動教室では「3Zs(学年目標【自律・自信・自他】)を意識して礼儀正しく、笑顔で過ごそう」をスローガンに準備を進めています。移動教室では、自分たちで考え、行動する場面が多々あります。仲間と協力して生活すること、時間やマナーを守ることなど移動教室で学んだことを、移動教室後の学校生活にも生かせるよう指導していきたいと思います。実りのある移動教室になるよう支援していきたいと思います。保護者の皆様にも準備等でご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いします。